



「169のころ」

節分へ向け、豆まきができるように、お部屋に鬼を作ることになりました。

顔を作りたい子が作り、新聞紙をたくさんつめて、大きな鬼ができると、「せんせい、体もあったほうがいいんじゃない？」とRくん。そこで体も作ることになり、友だちと協力しながら、大きな鬼が完成しました。

その鬼は毎日のように、子どもたちが、ごはんを食べさせたり、布団をかけてあげたりと、お世話あそびをされていて、ある日、午睡後に女の子が「鬼さんおはよう」とやさしく声をかけている姿がありました。

わが子のように、やさしい言葉をかけたり、お世話をしたり……

自分たちで作った鬼だからこそ、とても大切にしてくれているんですね。

3月の予定





小布い気持ちの中で、下んの一瞬の決意! たった一つの新聞紙ボールに下んの大きな勇気がつまってほげこの
必ず言えぬ、抱きしめてくれる存在があるからこそ一歩踏み出せる力に。こんな小さな冒険を一つ一つ
積み重ねながら子どもの世界は広がっていくのでしょう。大好きなおうちのひとと離れず園での時間。
未だに職員が、「この人がいなくなるから緊張する」そんな安全基地にたもっているのなら、こんな嬉しいことはありません

12月から延期になっていた3歳以上児さんの”The One” on the Stageへのご参加ありがとうございました。その名前に相応しい、それぞれの輝きが見られた1日となりました。



さて、先月「佐賀のきみまる」と言われている吉村春生先生をお招きして子育て講演会を行いました。「甘え=子どもが安心感を得るためにすること」「泣くことと夢中になることが心のクリーンアップになる」など、学びになる言葉を沢山頂きました。その中でも印象的だった言葉。それは「お母さんが幸せになってくれたら、子どもは幸せに育つ」という言葉です。そのためにはお母さんがほっとする時間が必要である、とも。仕事も子育ても、ほっとする時間がパフォーマンスを上げるそうです。確かに、1時間でも自分だけの時間があれば、我が子に余裕を持って接することができる、と考えたことがあるのは私だけでしょうか。そして不思議なもので、自分だけの時間を持った後は、我が子に早く会いたいと、何倍も愛しく思えるものです。

さらに、「甘え(安心感)」と「夢中」が機能する園が子どもにとって最も魅力的な園だそうです。武雄こども園は、お子様をお預かりしている間、全ての子どもたちの甘えを優しく包み込み、大人も子どもも夢中になるような環境を今後もご用意いたします。

最後に、吉村先生の締めくくりの言葉を贈ります。

「今、あなたをわずらわせているこの子が
あなたが老いた時 真っ先に駆けつけてあなたの手を握ります。」